

米穀事情と政府及関係団体の米穀対策

昨年の今頃は、米価は急騰を辿つてゐた。その原因が端境期に於ける米の供給過剰にあつたことは本
 紙までもない。経営改善と技術の進歩による生産の増大や外地の移入増大やまた米消費量の減少特に農
 村購買力の激減が過剰米を造つてゐたのである。

しかし今年はどうか？

八月一日現在に於ける米穀在庫は総量三千五百九百石にして之を前年同期に比すれば七百八十二万石即
 ち三割五分余の増大を示してゐる。

産地	九年度	前年同期比較
外地米	二八、四三、三三四	七、四三、四一五
朝鮮米	一、一四、四〇一	四、一三、八五八
台湾米	四、五四、一〇九	一、六七、三六
外国米	九、一一〇	▲三、三九七
計	三〇、〇五、九六四	七、八、二〇、三三八 (單位千円▲は減)

端境期に於ける需給状態はどうか
 供給 八月一日在米高 三〇、〇五
 鮮米移入見込高 一、五〇〇
 粳米移入見込高 一、二〇〇

計 三二、七五一

需要 消費見込高 一六、一一四

白米三ヶ月間の一人当り消費量二斗四升一合に本年四月末推定人口六六、八六、一八一人を
 乘じたまの

後輸公見込高 一〇〇

計 一六、二一四

差引持越高は一六、五三、七千石となるが、このうち政府所有米千二百萬石(七月末現在高一四、七、六万
 四千石から季輸以下と特別以下米三七〇万石と見て)があるから、端境の民間持越高は僅か四百五十万
 石である。而して炊貯藏五百三十一万石中一五〇万石は本米穀年度中に解除されるのであり、実質
 上の民間在米はそれだけ少くなる。

全国水稻作況は濃林首より稍不茂と発表され、主要産地が概ね不茂であるから、今後の天候が有
 利であつても、五分減收の五九〇〇石は確実と見られる。他方外地米移入は朝鮮の水害その他によつて
 減少しても台湾米と合せて一〇〇〇石を下るまい。これに端境期民間持越高四五〇万石を加へれば餘儀
 給高は七四五〇万石となり、本年度推定消費高七、八五〇万石に比するも三〇〇万石不足する。且つ端境
 の需給を円滑にするため最低四〇〇万石の民間持越を必要とするから政府は買出しを三〇〇万石、自今持越の
 半分を以下に抑へる需給の均衡は保たない。